

8. 接続試験

8. 接続試験

8.1 接続試験の概要と内容

自社システム利用者で、以下に掲げる場合に該当するときは、NACCS センターが定める接続試験を行い、NACCS センターサーバと自社システムとの間で、電文の送受信が支障なく行われることを確認しなければならない。

- A. NACCS へ新規に参加する場合
- B. 自社システムのハード交換、または自社システムで行う NACCS 業務の追加・変更のための自社システムソフトの改変等により、NACCS センターサーバとの動作確認が必要となる場合
- C. NACCS センターサーバ側のソフト改変等による、自社システムソフトの改変における動作確認が必要となる場合

(1) 試験内容

<第0段階>

対象者 : 以下の処理で接続を行う民間利用者（自社システム利用者）

- インタラクティブ処理方式（SMTP 双方向）利用者
- メール処理方式（ゲートウェイコンピュータ）利用者
- 管理資料取出処理（自社システムを用いた場合）利用者

（注）インタラクティブ処理方式（ebMS）利用者は、本段階でのプロトコルレベルの導通確認は実施しない。

接続試験の目的：プロトコルレベルの導通確認

接続試験の内容：NACCS 接続用ルータを利用者システムの設備に接続し、自社システムから、NACCS センターの ping ポイントに対して ping コマンドを実行し、ネットワーク的に NACCS センターサーバまで到達できるか確認する。

<第1段階>

対象者 : 以下の処理で接続を行う民間利用者（自社システム利用者）、または民間システムの利用者

- インタラクティブ処理方式（SMTP 双方向）利用者
- メール処理方式（ゲートウェイコンピュータ）利用者
- インタラクティブ処理方式（ebMS）利用者

（注）管理資料取出処理（自社システムを用いた場合）利用者は、本段階での電文レベルのテストは実施しない。

接続試験の目的：電文レベルのテスト（メイン処理部折り返し）

接続試験の内容：「折り返し業務（T C C 業務）」を使用し、NACCS センターサーバで処理した結果の電文を利用者システムが正しく受信できることを確認する。
「折り返し業務（T C C 業務）」の詳細は、「業務仕様書」を参照すること。

<第2段階>

対象者 : 以下の処理で接続を行う民間利用者（自社システム利用者）、または民間システムの利用者

- インタラクティブ処理方式（SMTP 双方向）利用者
- メール処理方式（ゲートウェイコンピュータ）利用者
- インタラクティブ処理方式（ebMS）利用者
- 管理資料取出処理（自社システムを用いた場合）利用者

接続試験の目的：利用者が行う業務処理のテスト

接続試験の内容：

- インタラクティブ処理方式（SMTP 双方向）利用者
- メール処理方式（ゲートウェイコンピュータ）利用者
- インタラクティブ処理方式（ebMS）利用者
NACCS センターが指定した設定値（ダミーデータ）または自社データを用いて、試験対象業務において、NACCS センターサーバで処理した結果の電文を利用者システムが正しく受信できることを確認する。
- 管理資料取出処理（自社システムを用いた場合）利用者
利用者システムから管理資料一覧取得、管理資料情報取出、管理資料情報再取出が、正しく実施できることを確認する。

（参考）NACCSセンターが提供するパソコン用パッケージソフトを使用する利用者（Peer to Peer接続利用者、ルータ接続利用者）については、接続試験は原則として必要としない。

(2) 接続試験の実施について

接続試験の実施にあたっては、事前に、利用者から接続試験の申込みを行うものとする。当該申込みに基づき、NACCS センターで試験日程等各種調整を行う。試験実施に係る詳細事項については、上記各種調整の際にNACCSセンターから通知する。

(3) 留意事項

接続試験を実施するための環境は、バックアップセンターの一部に構築される。このため、大規模災害及び大規模障害の発生等によりメインセンターに影響があった場合には、バックアップセンターによりシステム運転が実施されるため、接続試験は実施不可となる。